



学習指導要領改訂に向けた論点 1

これからの社会像

① 人口減少・少子高齢化や地球環境の有限性を踏まえた持続可能な社会づくり

- コミュニティ存続が現実問題となる中、地域におけるヒト・モノ・カネの循環や幸福・福祉（well-being）の向上が喫緊の課題であり、当事者意識を持った社会の創り手を育てる必要性

② 公正な社会における多様な子供たち一人一人の豊かで幸福な人生の実現

- 不登校児童生徒や特別支援教育の対象となる児童生徒、外国人児童生徒など、特異な才能を有する子供を含め、教育的支援を要する子供が増加し、子供たちの多様性が顕在化
- 子供の貧困など、世帯の経済的困窮等を背景に教育や体験の機会に乏しく、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にある子供たちの存在

③ グローバルな協働

- 国内外で異なる価値観を持った人々と、協働による課題解決が必要

④ 生成 AI の加速度的発展など変化の加速化・非連続化

- 既存の情報を整理・分析するだけなら AI の方が有能。AI やデータを十全に使いこなすことは前提としつつ、豊かな人間性を育むこと、個々の情報の意味を理解し問題の本質を問うこと、課題を発見したり設定したりすることの重要性が増大

⑤ 前回改訂時に2030年頃として描いた社会像が想像以上の速さで現実化

- これを危機と捉える議論に正対しつつ、むしろ未来を切り拓く絶好のチャンスと考える必要
- 子供たちのよりよい学びや幸福を確かなものにしていくこと、よりよい教育を通じてよりよい社会の創り手を育てるという発想のいずれも大事にしつつ、教育課程の在り方を検討する必要

⑥ 学校の本質的な役割の再認識

- 新型コロナウイルス感染症拡大の防止のための様々な対策等を経る中、学力の保障のみならず、全人的な発達・成長を保障するという役割、他者と安全・安心につながる居場所・セーフティネットとしての福祉的役割など、学校が持つ様々な役割が改めて実感^{あつれき}を伴って理解
- 学校は、学年・学級という生活を共にする集団の中で、多様な他者に出会い、共感や軋轢^{あつれき}の中で自己を知り、高めるとともに、他者とどのように共存するかという、社会を形成していく上で不可欠な人間同士のリアルな関係づくりを子供たち相互の関係で学ぶ貴重な場
- このような多様な背景を持つ児童生徒が学ぶ場所としての学校の役割は、包摂的で、他者への信頼に基づく民主的・公正な社会を実現していく基盤として一層重要となっており、社会の分断や格差を防ぎ、持続可能な社会の創り手を育てる観点からも更なる充実が必要